

令和7年度 第4回美里地域会議 会議録

日時：令和7年7月10日（木）19時～20時30分

場所：美里交流館 多目的ホール

出席者：＜地域会議委員＞大坪 道助、岡本 渉、北村 猛志、小林 健一、
小林 忠雄、清水 幸男、鈴木 智映子、中島 康隆、
野村 耕一、濱野 敏子、松村 洋、丸石 敏憲、
望月 英光、森口 美代子、山本 由和、吉本 勝、
佐藤 弘、柘植 英司
(欠席) 青木 徹、豊田 博久
＜高橋支所＞ 前田支所長、出口副支所長、河野主査

＜内容＞

1 豊田市民の誓いの唱和

2 会長挨拶

3 高齢者実態調査 アンケート設問協議

(1) 事前説明

事前に配布したアンケート設問のたたき台について、先日福祉支援専門フェローの川端様、松村会長、野村副会長と事務局で打合せを行い、打合せ時に出た意見を踏まえて事務局が作成したものと説明した。また川端様の経歴や立場などを、前田支所長から委員に改めて説明した。

今日の会議について、たたき台の各設問に対し委員から意見を伺うが、意見はすべて一旦持ち帰り、後日委託業者と川端様にたたき台と委員の意見を提供し、調査と福祉の専門的な観点からの助言をいただくため、今日はまだ結論を出さないことを説明した。

委託業者と川端様からの助言を受け、再度事務局が設問案を作成し、次回の地域会議で委員に設問案を提示し、そこで設問を確定する予定であることを説明した。

(2) アンケート設問説明

アンケート設問のたたき台について、委員にどういった目線で確認してほしいか、各設問および回答の選択肢、なぜこのような内容にしたのかを事務局から委員に説明した。

(3) アンケート設問協議

アンケート設問のたたき台について、各ジャンルごとに委員の意見を伺った。

① 全体

- ・ 高齢者の中には身体状況や認知症などにより、自分でアンケートに記入できない人もいる。そういった人たちにも回答してもらえよう、「家族による代筆可」などの案内を入れるべき。
- ・ 設問や回答の選択肢について、「～しているか」、「～だと思いか」ではなく、もっと優しく丁寧な言い方にしたほうがいい。
- ・ 設問によっては、選択肢を複数選択できるものもある。複数選択してよいものは「複数選択可」などの記載を入れたほうがいい。また複数選択可の場合も、より思いが強い回答を把握するため、選択できる数の上限を設定したほうがいい設問もあると思う。(上限を設定する場合は2～3個くらいを想定)
- ・ 全体的に、「～をやっているか」という設問については、選択肢の順番を「やっていることの例」、「その他でやっていること」、「やっていない」という順番にしたほうがいい。

- ・「その他」について、具体的な例を記載したほうが回答しやすいと思う。その他の回答は、年齢により回答内容の傾向が分かれてくるかもしれない。一部の設問で、その他欄に自由記述欄があってもいい。
- ・最初に「～しているか」と聞く場合、回答は「している」、「していない」で回答してもらい、次の質問では「している」と回答した人に対し「どんなことをしているか」と聞くような、つながった聞き方のほうがわかりやすいのではないか。
- ・「美里地区の地域特有の課題」を把握するのが目的ではあるが、地域性にこだわりすぎると、本来聞くべき内容から外れてしまう可能性もある。設問内容は地域性を意識しすぎなくてもいいと思う。

② 基本情報（年齢、性別など）

- ・要支援・要介護認定の有無について、選択肢が「①認定あり、②認定なし」とあるが、この事業は今後「認定なし」の人を対象にしていくので、「①認定なし、②認定あり」としたほうがいいと思う。また、要支援と要介護では身体状況がかなり異なる。選択肢を「認定なし、要支援認定あり、要介護認定あり」の3択にすれば、回答結果を今後の別の事業で参考にできるかもしれない。
- ・ここで要支援・要介護認定なしと認定ありの結果を比較することで、今後美里地区に認定ありの人が増えないような方法を探していくこともできると思う。

③ 健康について

- ・運動している内容について、その他欄に具体的なスポーツの種目名などを載せることにより、年齢別の分析が行えると思う。集計のときにそれが分かるような設問内容にしてほしい。
- ・すでに運動をしている人もいれば、運動が嫌いな人もいる。回答にはそういった選択肢も入れたほうがいい。

④ 人とのつながりについて

- ・困りごとの相談先について、選択肢に「自治区」が無いのが残念。高齢の方が困っている際、よく自治区に相談が来る。
- ・困りごとの相談先について、選択肢に「職場関係」を追加してほしい。
- ・地域の集まりについて、選択肢に「高齢者クラブ」を追加してほしい。
- ・設問の「ちょっと困っていること」という表現について、「ちょっと」とはどこまでを指すかがよくわからない。
- ・SNS を利用して人とつながっているかについて、SNS だけではなく、電話でも遠方の人とつながることはできる。
- ・SNS の例に「AI」を追加してほしい。
- ・「インターネット」と言われても、高齢者の中にはインターネットが分からない人もいる。高齢者でもわかりやすい言い方にしてほしい。
- ・「困っていることはあるか」と聞くだけではなく、「困っていることは何か」という設問もあったほうがいい。

⑤ 日常生活での移動について

- ・設問数が少ないように感じる。もう少し深掘りした設問があってもいい。
- ・「免許を返納した後どうするか」、「地域バスがあれば乗るか」など、未来のことも聞いたほうがいい。ヒヤリングでもより深い意見を聞きやすいと思う。
- ・「現状困っていること」と「将来不安に思っていること」を分けて聞いたほうが分析がしやすいと思う。

- ・アンケートへの意見ではないが、他市でやっているような無料バスなどを豊田市も実施してほしい。

⑥ 安全・安心について

- ・「自治区や地域で避難のお手伝いができる場合、避難を手伝ってほしいか」という設問を追加してほしい。
- ・「災害が起きたときに心配に思っていること」の選択肢に「災害後の生活」とあるが、これだけでは漠然としすぎている。たとえば「公共交通や水道などのインフラが止まったとき、あなたは何日生活できますか」などの具体的な質問をしてほしいと思う。そこで「あまり生活できない」のような回答が多ければ、美里地区にはそういった人が多いため、何か対策が必要だ、と事業化につなげることができる。困っている人をあぶりだすような設問がいい。
- ・災害の説明として「地震や台風など」とあるが、美里地区は水害や害獣の問題もあるので、回答者に自分事として考えてもらうなら、水害や害獣の記載も入れたほうが良いと思う。
- ・「安全」の一環として、防災・防犯だけではなく、交通安全についての設問を入れてほしいと思う。
- ・アンケートへの意見ではないが、「家具等の安全対策」について、自分が行った体策が本当に問題ないか点検してもらえそうな事業があればいいと思う。

⑦ 自分ができそうなことについて

- ・自分の趣味や特技を活かすことに限らず、回答者が「地域貢献」についてできることを答えられるような設問の表現が他ににあると思う。
- ・自由記述の回答を書きやすくするため、もっと記載例を入れたほうが良いと思う。「地域の役に立つことをしてみたい」や、いくつかの団体が行っている具体的な活動のことなど。
- ・「できそうなこと」という聞き方だと回答者が尻込みしてしまうかもしれない。「やりたいこと」という聞き方のほうが良いのではないかな。

⑧ その他

- ・設問の最後に、「何か市にやってほしいことはあるか」などの要望を書く自由記述欄があればいいと思う。
- ・分析を進めていくにあたり、このアンケートの設問内容がかなり大事。委託業者とよく話し合っ、正しく分析が行えるような調査票を作成してほしい。

4 アンケート調査のチラシについて

9月上旬にアンケート調査票を発送するが、その前に8月の区長会で本調査のチラシを配布し、自治区で回覧予定。本来ならチラシの内容も委員のみなさまに確認していただきたいが、次回の地域会議より前に8月の区長会があるため、今回は事務局が作成したチラシを松村会長、野村副会長、佐藤区長会会長の3者にご確認いただく対応とする。

5 事務連絡

第5回美里地域会議について

- ・日時 令和7年8月21日（木） 19時～
- ・場所 美里交流館 多目的ホール
- ・内容 アンケート調査の内容確定